

2022年12月20日号（令和4年）第3797号週刊

購読の
お申し込みは

0120-155103



Web版はこちらへ

ホームページ <https://www.jutaku-s.com> 住宅新報 検索

100% SATISFACTION GUARANTEED

ケータイは
こちらから

全国の読者とともに75年

創刊
75th
ANNIVERSARY
読み 知る つないで

住宅新報

物流不動産ビジネス ケーススタディ

倉庫ドクター・コンサルの現場から

第9回

貯自体が一般的ではありませんでした。空間を収益化する点では共通する「倉庫業」と「不動産業」ですが、元々の考え方、契約形態は大きく異なります。それが、2001年の省庁再編で共に国土交通省の管轄になり、物流に不動産の考え方方が入つてきました。

でむら・あきこ=富山県出身。奈良女子大学大学院修了。一級建築士、宅地建物取引士。不動産コンサルティングマスター。15年より㈱イーソー「総合研究所代表取締役」。著書に「築古「ビル・倉庫」のリノベーション・コンバージョン計画実務資料集」(総合ユニコム株、共著)

トに賃貸借契約でスペースを貸しつつ、保管や配送などの物流は倉庫会社が請け負うといった、賃貸借契約と寄託契約のハイブリッドも増えています。

なスキルも異なります。テナントとの間に賃貸に長けたマスタークリーサーを挟むことで、こうしたリスクを低減しつつ、安定した賃料収益を得られます。

預かるためのスペース)と
賃貸エリア(テナントに貸
し出すスペース)の厳密な
区分が必要ですが、便宜的
に建築基準法で定められた
防火区画を貸し出し単位と

二刀流のマスターりース

倉庫にては、第三者への転貸を目的としてオーナーから物件を賃借するマスター・リースが珍しくありません。それには理由があります。以前は、倉庫の賃

収益の多様化の観点から多くの倉庫業者が荷主から荷物を預かり保管する事業だけでなく、倉庫の一部を賃貸する不動産事業も行うようになりました。テナント

者にとって、賃貸事業は全くの異業種です。不動産の対応では、家賃滞納、賃料の値下げ、建物の不具合、原状回復のトラブルなど、様々なリスクがあり、必要

用の経緯も考慮しないにれば
なりません。既存の倉庫の
ほとんどは自社使用のた
め、賃貸用の構造ではあり
ません。本来、倉庫は寄託
貨物エリア（自社で荷物を

なぜ直接賃貸ではなく、マスター・リースなのでしょうか。理由は二つです。一つは、貸主である倉庫業者のリスク低減のため。これ

となり、工事費を負担して貸し出すことで成約になる案件は多くあります。

として利用するケースが頻発していました。

もう一つの理由は、テナントの初期投資を抑えるため。倉庫は月額賃料が安くても入居時の内装工事が高額になりがちです。この初期投資がネックになると、マスター・リーサーが貸

この物流加工を中心とする物流企業や通販事業者にとつて、この区分は大きすぎます。そのためテナント同士が同業他社にスペースの一部を転貸し、共同の作業場

間の調整等により、安全安心な施設運営を行います。様々な役割を担う倉庫のマスター・リースは、物流と不動産の両方を知っているからこそできる二刀流ビジネスといえるでしょう。